

## 総合計画市民検討協議会 第6回報告書（行財政運営部会）

<b>記録者</b>	鈴木 梓平	<b>場所</b>	市役所北庁舎第1～3会議室	
<b>開催日時</b>	平成24年4月14日（土） 午前9時30分～正午			
<b>出席者 （9名）</b>	伊東 信江	小川 暁男	清水 雅英	内藤 治
	松木 紀美子	鈴木 梓平	堤原 聡	中村 太一
	堀 宗生			
	佐藤 直人（オブザーバー）			
<b>傍聴者</b>	なし			

<b>基本目標</b>	2 行政改革への取組
<b>基本施策</b>	7 職員の育成と組織の活性化
<b>めざすまちの姿（平成33年のまちの姿）</b>	
<p>（市民を主語にすると考えやすい ※計画の推進にあたっては一部該当せず）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他市からの視察が多い市。</li> <li>・東京都や他市の事例を参考にして自治体として先進的な市</li> <li>・府中市の職員として誇りに思える市</li> <li>・市民と職員が一緒にまちづくりを行う市</li> </ul>	
<b>主な課題</b>	
<p>（めざすまちの姿と現状のギャップを埋めるために必要なことを課題と捉えると考えやすい）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修担当の体制を重点的にする。</li> <li>・市民と協働するための研修を実施する。</li> <li>・研修に必要な予算を確保する。</li> <li>・新任研修などのルーチン研修も良いが、今後は特殊な事案やタイムリーな種々の研修を増やす。</li> <li>・ファシリテーターやチームビルディングの研修をもっと行う。</li> <li>・形骸化しているような研修は廃止する。</li> </ul>	

<b>役割分担の考え方</b>
<p><b>【市民の役割】将来像の実現に向けて自分たち市民ができること、取り組むべきこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市政（議会、委員会などを含む。）への積極的な参加</li> <li>・すべての市民が市政に関心を持つこと。</li> <li>・市民から行政へアイデアを提案すること。</li> <li>・市民と市民をつなぐコーディネーターや自治会・地域・PTAをつなぐキーパーソン・コーディネーターが必要。</li> <li>・市政への関心が低い市民を巻き込み、共に市民協働を進める機運を高めていくこと。</li> </ul>

**【行政の役割】自分たちの取り組みを実現するために行政に支援してもらいたいこと、行政が行うべきこと**

○研修関係

- ・「市民主体のまちづくり」のための研修をすること。
- ・職員は、日々の業務を遂行しつつ、研修を受講すること。
- ・受講した研修を報告だけで終わらせるのではなく、職場に浸透させるシステムを作り、業務に反映させること。
- ・市民との協働を推進するための職員用教育プログラムの実施すること。
- ・外部のノウハウ、スキルの導入以前に、庁内でアイデアを出し議論すること。
- ・市民とタッグを組んで研修を行うこと。
- ・1つの研修を受講するに当たって、職場から最低2人以上研修に参加すること。
- ・理事者や管理職が研修の方向性を決めること。
- ・既に研修の成果を導入している部署は、まだ導入していない部署に教えるような仕組みを作ること。

○視察関係

- ・積極的に他市と連携し、職員間のネットワークの構築を図ること。
- ・他市から頻繁に視察に来るような先進的な取組をすること。
- ・視察の結果を適切に業務に活かすこと。

○その他

- ・国家資格や弁護士資格などの専門知識のある人と行動し、能力の向上を図ること。
- ・研修は、「担当」1人ではなく「係単位」で取り組むこと。
- ・研修担当は、できる限り若手職員ではなく、熟練職員とする。
- ・府中市人材育成基本方針の見直しをする。
- ・多様な雇用形態による職員採用で組織の活性化を図る。

**その他 提案事項**

(指標のアイデア、事業のアイデアなどの提案など。)

○指標の考え方に問題があるのではないか。

- ・電話対応の指標をとるよりも、どこの職場のどのような対応が悪かったなどの情報を入手しなければ改善されないのではないか。
- ・職員の提案数の指標（100件）が少ないのではないか。職員1人1件は提案するべき。
- ・職員の提案数よりも、その採用した提案数や内容の方が重要ではないか。

**事務局への連絡事項**

総合計画262ページに「職員の対応に満足している市民の割合」という項目があるが、平成15年度にその割合が下がっている理由は何か。

## 総合計画市民検討協議会 第6回報告書（行財政運営部会）

<b>記録者</b>	鈴木 梓平	<b>場所</b>	市役所北庁舎第1～3会議室	
<b>開催日時</b>	平成24年4月14日（土） 午前9時30分～正午			
<b>出席者 （10名）</b>	伊東 信江	小川 暁男	清水 雅英	内藤 治
	松木 紀美子	鈴木 梓平	堤原 聡	中村 太一
	堀 宗生	三浦 直広		
	佐藤 直人（オブザーバー）			
<b>傍聴者</b>	なし			

<b>基本目標</b>	3 財政運営の効率化
<b>基本施策</b>	8 財政運営の効率化
<b>めざすまちの姿（平成33年のまちの姿）</b>	
<p>（市民を主語にすると考えやすい ※計画の推進にあたっては一部該当せず）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歳出削減と歳入確保に努める市。</li> <li>・市独自の財源を増やすことができる市。</li> </ul>	
<b>主な課題</b>	
<p>（めざすまちの姿と現状のギャップを埋めるために必要なことを課題と捉えると考えやすい）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滞納している税金の収納率を高める方法を検討する。</li> <li>・市有地（国有地及び都所有地）の有効活用を図る。</li> <li>・単年度の予算編成だけでなく、可能などころから複数年度の予算編成を行う。</li> </ul>	

<b>役割分担の考え方</b>
<p><b>【市民の役割】将来像の実現に向けて自分たち市民ができること、取り組むべきこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市政（議会、委員会などを含む。）への積極的な参加</li> <li>・すべての市民が市政に関心を持つこと。</li> <li>・市民から行政へアイデアを提案すること。</li> <li>・市民と市民をつなぐコーディネーターや自治会・地域・PTAをつなぐキーパーソン・コーディネーターを設置する。</li> <li>・市政への関心が低い市民を巻き込み、共に市民協働を進める機運を高めていくこと。</li> </ul>

**【行政の役割】自分たちの取り組みを実現するために行政に支援してもらいたいこと、行政が行うべきこと**

○歳入確保関係

- ・市税等の収納率向上施策を積極的に推進すること。
- ・広告料収入を増やすこと。
- ・受益者負担の考えで、従来「無料」のものを「有料」に変更すること。
- ・市民サービスを低下することなく、事前に中立的に評価し、不必要な公共施設の売却・民間譲渡を行うこと。
- ・ネーミングライツ制度を活用すること。
- ・法人から歳入を確保する方法を検討すること。(ふるさと納税の法人版など)
- ・柔軟な予算編成を行うこと。
- ・給食費などを確実に徴収するシステムをつくること。
- ・使用されていない市有地(国有地及び都用地)の有効利用又は売却等を行うこと。

○歳出削減関係

- ・平和島の運営について撤退も含めて事業の見直しを行うこと。
- ・公共施設の売却・民間譲渡により維持経費の削減を図ること。
- ・「公助」や「自助」の考え方から、共に助け合う「共助」や近所の市民同士が助け合う「近助」に考え方をシフトし、やがては市の仕事等を依頼して歳出を減らすこと。

**その他 提案事項**

(指標のアイデア、事業のアイデアなどの提案など。)

- ・経常収支比率「80%」を目標にチャレンジする。
- ・他の自治体と比較して恵まれている行政サービスを、税の公平性と受益者負担の原則に立ち、見直す。
- ・市が交付する補助金の必要性を見極め、適正な補助金とする。

**事務局への連絡事項**

特になし